地球を守るために必要な核兵器のあり方に関する一考察

加藤 嘉朗

結論から申し上げるに，私は核兵器が地球を守ることには繋がらないと考えている。そして今回，私はこの持論に至った経緯と，その過程で浮かび上がってきた疑問を，このオピニオンを通じて投げかけてみようと思う。この持論が机上の空論であることを願って。

私がこのように考える最大の理由は，核兵器が「兵器」だからである。核兵器は「兵器」として，ヒトや人々が築き上げてきた文明，あるいは地球を攻撃する用途で設計・運用されているモノである。そうしたモノが地球を守ることに繋がるようには，少なくとも私には思えないのだ。

もちろん，「核の抑止力（相互確証破壊）」によって地球は守られているという意見もあるだろう。事実，今の日本はアメリカの核の傘によって守られており，他の国々の多くも同様に核による抑止力によって大戦を抑止し合っている。戦争という破壊行為を回避している以上，今，核兵器は地球を守っているのかもしれない。しかしながら，いつまで核兵器を“抑止力的に”使い続けられるのか，疑問に思えてならないことも事実である。

そもそも，「核兵器は抑止力」ではなく，「核兵器は核兵器の使用に対して抑止力」という方が適当だろう。現にウクライナで起こっているように，核兵器に関わらず戦争は起こっている。これに関して，ウクライナがNATOに加盟していたら，状況は変わっていたと言う者もいるだろう。確かに，その可能性は大いにある。だが，もしそうだとするならば，戦争を抑止するためには，全ての国や当事者が直接的・間接的に核兵器を使用できる状態でなければ意味がないということになる。事実，核兵器を持たない者と核兵器を持つ者との間で，今まさに戦争が起こっている以上，核兵器は核兵器を持つ者にとっては相互確証破壊的に被抑止力となるが，核兵器を持たない者からすれば，ただの脅威に他ならない。

そして，ここまで話に上がってきた「核兵器」とは，ただの暴力装置や兵器ではなく，一度で広範囲にわたり，そこに居る人々はもちろん，その土地や地域，国，そして放射能という力によって未来さえも殺すことができる兵器である。加えて，今現在，刀剣に対する鎧・甲冑のように，使用された核兵器を防ぐ術は，少なくとも一般人である私が知る限り，存在しない。また，核兵器同士の抑止についても，これは核兵器に関する人道的観点からの抑制か，あるいは功利主義的な点から，核兵器報復を受けることを回避するための不使用に過ぎないだろう。

私自身，核兵器や核兵器の基礎となる理科の諸学問に詳しいわけではないため，その具体的な内容まで言及することはできないが，核兵器の恐ろしさは日本人として，十二分に承知している

心算である。そうした恐ろしき核兵器について，私は昨今の情勢から演繹的に憂慮していることがある。それは「核兵器の一般化」である。

今はまだ，核兵器は国家規模のモノである。しかし，例えば，昨今 AI が急激な発展を遂げているように，あるいは日本において一般人による銃撃テロが発生したように，そう遠くない将来，技術的・心理的に小集団レベル・個人レベルで核兵器を扱うことができるようになるのではないだろうか。

もっとも，これは妄想の域を出ない考えである。核兵器と AI，日本でのテロ事件を一緒くたにして考えることは愚かしいことかもしれない。だが少なくとも，核兵器の『魅力』が喧伝されていることは間違いないと言っていいのではないだろうか。

先に述べたウクライナの NATO 加入論や，各国で進むニュークリア・シェアリング，そして背景にある国連常任理事国など核保有国の圧力と外交的・戦争的優位性など，今，世界では核兵器とその魅力が広まりつつある。そして，その発信源は有名 YouTuber でもカリスマインフルエンサーでもなく，『国家』という世界的で最大級の有名人たちによるものである。

ここで私は読者に問いかけたい。

国家がこぞって欲しがっている核兵器というモノを，もし個人が手に入れたらどうなるだろうか。あるいは，今はまだ相互確証破壊的に抑止力が働いている核兵器だが，もしも自爆テロ的に核兵器を使用する者が現れた場合，それをどう阻止することができるだろうか。もし，阻止できずに使用された場合，その結果はどうなるのだろうか。果たしてそれは，「核兵器は地球を守れる」のだろうか。

核兵器製造に関する技術的な側面においては，もはや止められず，むしろ発展していくことだろう。しかし，核兵器使用に関する心理的な側面においては，まだ止めることができるのではないかと私は考えている。そして，そのためにも，世界が，国家たちがすべきことは一体何なのか，私はここに問い続けたい限りである。